様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３２６２７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３８０８９１

研究課題名（和文）児童期・青年期の読書活動と越境的交流の発達への影響過程の分析

研究課題名（英文）The effects of "cross-boundary"experience in the reading-book activity from childhood to early adolescence on their social-cognitive development

研究代表者
田島　信元（TAJIMA, Nobumoto）

白百合女子大学・文学部・教授

研究者番号：９０００２２９５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：乳幼児期から児童期，青年期に至る「読み聞かせ・読書活動」体験のあり方が，子どもの社会的，認知的発達へ影響していく過程を検討した。
その結果，乳幼児期では，最初親から読み聞かせてもらっていたのが，次第に自分で自分に読み聞かせができるようになっていく自立化（読み聞かせ手としての役割取得・交代：『垂直的越境活動』）の過程を通して，児童期，青年期では，さらに家庭－学校－地域といった複数の生活世界の境界を横断して読書活動を体験するという異なる視点からの役割取得・交代の再吟味（家族・友人との読書経験の共有といった『水平的な越境活動』）も加わって，社会－認知的発達に影響を及ぼしていくといくことが示唆された。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to examine the relation of family, school or community environments supporting children’s reading-book activities from childhood to early adolescence to their style of reading-book activities and social-cognitive development.
The results showed as follows. (1) The “vertical cross-boundary” experience, such as self-book-reading activity, done through child’s taking parent’s role in the parent-child co-book-reading activity, is related to preschoolers’ social-cognitive development.(2) The “horizontal cross-boundary” experience, such as the information exchange on school children’s book-reading activity, facilitating the reexamination of their own role-taking experience, is related to their social-cognitive development, through their deep reading-book activity, such as the orientation of detailed reading activity and their “feeling of self-efficacy” on book-reading.

研究分野：社会科学（心理学）

キーワード：読み聞かせ活動　読書活動　社会的相互作用　自己内相互作用　垂直的越境活動　水平的越境活動　社会情動的発達　認知発達

１．研究開始当初の背景

近年，子どもの読書離れと基礎学力低下が結び付けられて論じられるにつけ，「生涯読書」運動が推進され，幼少期からの読み聞かせをはじめとする読書活動の重要性が熱く語られている。語彙の豊富さや読解力は学習の基本でもあり，社会性の基盤につながるものとも言われる。その意味で読書の効用は大きいと言われ続けており，最近，児童期以降においても本格的に全校一斉読書をはじめ，中学校の国語の授業で絵本の読み聞かせを取り入れたり，ビブリオバトルやブックトークといった読書関連活動も展開されるようになってきた。読書活動推進が教育現場から，逆に，地域や家庭へも広がりつつあるとともに，高齢期に至るまでの幅広い年代での「読み聞かせ・読書」活動の推奨が叫ばれている状況でもある。

以上のように「読み聞かせ・読書活動」が生涯発達に大きな影響を及ぼすということに関心が集まっているのであるが，しかしこの点の実証的な研究は十分になされていない。発達初期の段階では，Cole(1995)の親子間読み聞かせ活動過程の理論モデルや，Vygotsky(2001)の言語リテラシー獲得に関わる発達理論をもとに抽出された乳幼児期の「読み聞かせ－読書」の 2 段階 5 ステップ発達モデル(田島ら，2010)などがあるが，児童期以降についての発達モデルは提示されていない。

しかしながら，田島らが指摘する幼児期に現れ始める第二段階の深化が児童期以降の主流となると考えられる。まず，幼児期では第一段階（乳児期）で大人から読み聞かせられていた体験を子ども自らが自分に対して読み聞かせるようになるという，読み聞かせ手としての役割の取得・交代経験をするのであるが，こうした大人の役割を取得・交代して自立化していく過程は，Vygotsky の観点からは，子どもが大人の役割の境界を越えてその役割を担うようになるという意味で『垂直的な越境活動』と捉えられる。

さらに複数の生活世界（文脈）での活動が日常的となる幼児後期，児童期以降では，垂直的越境活動に加えて，複数文脈の境界を横断して一つの活動を異なる視点から見直すという体験を通して役割取得・交代した自身の活動を再吟味・深化する『水平的な越境活動』が盛んになると考えられる。具体的には家庭－学校－地域間の越境的交流による読書活動の深化という過程が推測されるのであるが，こうした越境的交流体験を通して子ども自身の言語発達，言語的コミュニケーションの発達が促進され，その結果，社会情動的－認知的発達との深い関連を示すようになることが予測されるのである（香川・青山,2015）。

２．研究の目的

そこで本研究では，幼少期からの読み聞かせ－読書活動のあり方と発達への影響過程を越境的活動の観点から検討する。とくに児童期・青年期の読書活動について，家庭内での家族間交流，学校や地域での友人や地域の大人との間の交流といった人的・場面的な境界横断的活動（『垂直的・水平的越境活動』）の発達的変化の分析と，それがどのようなプロセスを経て個人の読書活動や認知・社会的発達に関連していくのかを明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

1）研究対象者：

①乳児期：Ｎ県Ｓ市子育て支援ンター利用の乳幼児を持つ保護者〔0 歳(16 名), 1 歳(19 名)，2 歳児(13 名)：48 名（男児：20 名，女児：28 名)〕②幼児期：Ｎ県Ｓ市公立保育園年中児（４歳児クラス）を持つ保護者〔4 歳(8 名)‐5 歳児(35 名)：43 名（男児：18 名，女児：25 名)〕
③児童期：Ｎ県Ｓ市市立小学校児童〔2 年生 121 名（男子 59 名，女子 62 名)：5 年生 103 名（男子 52 名，女子 51 名)〕
④青年前期：Ｎ県Ｓ市立中学校〔2 年生 162 名（男子 71 名，女子 91 名)〕

2）研究手続き：

調査方法と手続き

質問紙調査票により，選択肢法で回答を求めた。各学校の担当教師の説明の下，授業時間内に配布，回答，回収を行った。

調査内容

1)乳・幼児期調査票：(ア)**子どもの読書活動**（読書習慣・読み聞かせ時の子の反応・読み聞かせ後の子どもの変化・一般的行動の発達）(イ)**保護者養育活動**（読み聞かせ・読書支援・親の行動，意識の変化・読み聞かせ方・親の発達期待）
2)児童・青年期調査票：(ア)**家庭内読書環境**（家族用本棚の有無・家で家族が読書する姿を見る経験）(イ)**読書活動実態と共有経験**（1ヶ月の読書量，学校内外の図書館利用実態，読書後に本の内容について友達や家族と話し合ったり紹介し合ったりする共有経験）(ウ)**読み聞かせ経験**　（幼児期・小学校低学年期に読み聞かせをしてもらった経験・読み聞かせをしてもらった場所）(エ)**本の読み方と読書の効果**（本の読み方・読書の効果尺度（松尾,2011））(オ)**社会的・認知的発達指標**（コミュニケーションスキル・共感性・学習の構え尺度）

４．研究成果

(1)乳幼児期の「越境的」読書活動と発達：

(ア)**「親のかかわり方」と「子どもの絵本への取りくみ方」との関連**：分散分析の結果，

乳児・幼児期ともに，母親の子どもに対する「対話的読み聞かせ」「教育的読み聞かせ」「社会・情動的発達への期待」「自立的読みへの期待」を意識して読み聞かせを行うことと，子どもの「絵本への興味・集中」「読み聞かせへの積極的参加」の高まりとの間に有意な関連が見られた。

(イ)**「子どもの絵本への取りくみ方」と「子どもの発達」との関連**：また，子どもの「読み聞かせへの積極的参加」「絵本への興味・集中」といった絵本への取り組みと，子どもの「言語積極的使用」「環境を通した遊び」「自立的・社会的行動」「自発的表現楽しむ」「数量・文字関心」「対人関係」の高まりとの間に有意な関連が見られた。

以上の結果から，乳・幼児期では親から絵本を読み聞かせてもらい，次第に自分で自分に読み聞かせができるようになっていくことで積極的に絵本に取り組むようになるという自立化（読み聞かせ手としての役割取得・交代）の達成，すなわち『垂直的越境活動』を通して，子ども自身の基盤的な発達を促進していくことが示唆された。

(2)児童･青年期の「越境的」読書活動と発達：

(ア) **親子・友人間読み聞かせ経験・読書共有体験と本の読み方との関係**：重回帰分析の結果，児童・青年期を通して，読書をとりまく環境要因，中でも児童期初期の親子読み聞かせ体験（β＝.17***）や親子・友人間読書経験の共有体験（β＝.38***）が感情移入しながら読むことと関連し，また，家族が読書をする姿を見ること（β＝.13*）や親子・友人間読書経験の共有体験（β＝.34***）が精読志向的な読書と関連を示しており，読書活動を媒介とした「垂直的－水平的な越境的交流活動」が感情移入・精読志向といった本の読み方に影響を及ぼすことが示唆された。

(イ) **本の読み方と読書効果感との関係：**また，感情移入（β＝.31***），精読志向（β＝.42***）が読書の効果感に関連しており，こうした本の読み方が深まると，読書の効果感の高まりに影響を及ぼすことが示唆された。

(ウ)**読書の効果感と認知･社会的発達との関連**：さらに，読書の効果感は，コミュニケーション能力（β＝.36***），課題解決志向（β＝.27***），知的好奇心（β＝.34***）といった社会－認知的発達の指標との間に関連が見られており，読書の効果感の高まりによって社会－認知的発達が促進されることが示唆された。

以上の結果から，児童期，青年期では，家庭－学校－地域といった複数の生活世界の境界を横断して読書活動を体験するという異なる視点からの役割取得・交代の再吟味（『水平的な越境活動』）も加わって，児童期初期の親子読み聞かせ体験，家族・友人との読書経験の共有など，読書活動に関わる垂直的－水平的な越境的交流活動が，生徒の感情移入・精読志向などの本の読み方に影響を及ぼし，さらにそうした本の読み方が読書効果感に影響を及ぼすことを通して社会－認知的発達に影響を及ぼしていくというプロセスが示唆された。

(3)総合考察：「越境的」読書活動と子どもの発達への影響過程：発達初期の家庭での親子の読み聞かせ（読み合い）経験は，積極的な絵本への取り組みに見られるように子どもの親役割取得・交代を生起させ，子どもが自分自身に読み聞かせるようになっていく自立化の過程を辿る。こうした子どもの親役割取得・交代は『垂直的越境活動』と呼べるものであり，子ども自身の社会－認知的発達を促進させる源泉であることが示唆された。

一方，児童・青年期になると，読書関連活動が家庭－地域－学校といった複数活動文脈に広がるため，発達初期の『垂直的越境活動』に加えて，複数活動文脈を横断する『水平的越境活動』により，複数の視点から役割取得・交代のあり方を吟味することを通して，本の読み方が深まり，それが読書活動の効果感を生起させることで，自身の社会－認知的発達を促進させるという影響過程が示唆された。

このような『垂直的－水平的越境活動』が子どもの文化的発達（社会－認知的発達）を促進していくことは，Vygotsky の文化的発達理論と軌を一にするものと考えられる。

＜引用文献＞

Cole, M.（天野清訳）.（2002）. 文化心理学：発達・認知・活動への文化－歴史的アプローチ. 新曜社.

香川秀太･青山征彦（編）.（2015）. 越境する対話と学び. 新曜社

田島信元・中島文・岩崎衣里子・佐々木丈夫・板橋利枝・野村宏美.（2010）. 乳幼児の発達に及ぼす「歌いかけ・読み聞かせ」活動の構造と機能の発達：理論・仮説と検証研究. 生涯発達心理学研究，第 2 号，132－156.

Vygotsky, L. S.（柴田義松改訳）.（2001）. 思考と言語. 新読書社.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計５件）

① 奥村桃子・<u>田島信元</u>・<u>宮下孝広</u>・大熊美佳子・岩崎衣里子.乳幼児期の読み聞かせ・読書活動支援のあり方と子どもの発達との関連性.生涯発達心理学研究, 査読有，7 巻，2015，65－76.

② 大熊美佳子・<u>宮下孝広</u>・<u>田島信元</u>・奥村桃子・岩崎衣里子.児童期・青年期の読書環境が読書活動のあり方，認知・社会的発達に及ぼす影響過程．生涯発達心理学研究，査読無，7 巻，2015，107－120.

③ 杉沢智子・田島信元.絵本の読み聞かせを通した「共感的心の理論」の深まり．生涯発達心理学研究，査読有，7 巻，2015，13－26.

④ 板橋利枝・田島信元・宮下孝広.「歌いかけ・読み聞かせ」に関わる母子相互作用と母親の発達期待が 0～2 歳児の発達に及ぼす影響．生涯発達心理学研究，査読無，7 巻，2015，85－106.

⑤ 田島信元・宮下孝広・大熊美佳子・岩崎衣里子・松本美幸・伊東直登.乳幼児期から青年期に至る「読み聞かせ－読書」活動の実態と促進要因の検討．生涯発達心理学研究, 査読無, 6 巻, 2014, 105－142.

〔学会発表〕（計８件）

① 奥村桃子・田島信元・宮下孝広・大熊美佳子・岩崎衣里子.乳幼児期から青年期に至る読書活動のあり方と発達との関連(1)：乳幼児期における読書活動と親のかかわりとの関連.日本発達心理学会第 26 回大会，2015 年 3 月 20 日～2015 年 3 月 22 日，東京大学（東京都文京区）

② 大熊美佳子・岩崎衣里子・奥村桃子・宮下孝広・田島信元.乳幼児期から青年期に至る読書活動のあり方と発達との関連(1)：児童期・青年期における読書活動のあり方の発達的変化について.日本発達心理学会第 26 回大会，2015 年 3 月 20 日～2015 年 3 月 22 日，東京大学（東京都文京区）

③ 田島信元・板橋利枝・宮下孝広・小谷恵・木原竜平・南徹弘.発達を促すコミュニケーション・ツールの独自性とその効用（2）：子どもの発達的変化に対応するツールのあり方.日本発達心理学会第 26 回大会，2015 年 3 月 20 日～2015 年 3 月 22 日，東京大学（東京都文京区）

④ 田島信元・岩崎衣里子・宮下孝広・内田直人.読み聞かせ・読書指導を通した社会実践型発達支援の試み：発達科学的視点を基礎として.日本発達心理学会第 26 回大会，2015 年 3 月 20 日～2015 年 3 月 22 日，東京大学（東京都文京区）

⑤ 田島信元・奥村桃子・宮下孝広・大熊美佳子・岩崎衣里子・松本美幸・伊東直登.乳幼児・児童・青年期の読書活動支援のあり方と成果（1）：「生涯読書」運動に向けた公的支援の実態調査.日本子育て学会第 6 回大会,2014 年 11 月 22 日～2014 年 11 月 23 日，秋草学園短期大学（埼玉県所沢市）

⑥ 奥村桃子・田島信元・宮下孝広・大熊美佳子・岩崎衣里子.乳幼児・児童・青年期の読書活動支援のあり方と成果（2）：乳幼児期の読み聞かせと子どもの発達の分析.日本子育て学会第 6 回大会，2014 年 11 月 22 日～2014 年 11 月 23 日，秋草学園短期大学（埼玉県所沢市）

⑦ 田島信元・板橋利枝・小谷恵・宮下孝広.発達を促すコミュニケーション・ツールの独自性とその効用.日本発達心理学会第 25 回大会，2014 年 3 月 21 日～23 日，京都大学（京都府京都市）

⑧ 岩崎衣里子・田島信元.絵本の読み聞かせが子どもの語い発達に及ぼす影響：社会情動的発達との関連より.日本発達心理学会第 25 回大会，2014 年 3 月 21 日～23 日，京都大学（京都府京都市）

〔図書〕（計１件）

① 田島信元・佐々木丈夫・宮下孝広・秋田喜代美（共編）.ミネルヴァ書房，歌と絵本が育む子どもの豊かな心と成長.印刷確定.総 230 頁

６．研究組織

(1)研究代表者
田島　信元（TAJIMA, Nobumoto）
白百合女子大学・人間総合学部・教授
研究者番号：90002295

(2)研究分担者
宮下　孝広（MIYASHITA, Takahiro）
白百合女子大学・人間総合学部・教授
研究者番号：001907785

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
大熊　美佳子（OKUMA, Mikako）
秋草学園短期大学・専任講師

岩崎　衣里子（IWASAKI, Eriko）
白百合女子大学・生涯発達研究教育センター・研究員

奥村　桃子（OKUMURA, Momoko）
白百合女子大学大学院文学研究科・博士課程

伊東　直登
塩尻市市民交流センター

松本　美幸
塩尻市市民交流センター